

タイトル:

IZU DAO MEMBER

IZUとDAO ホワイトペーパー

サブタイトル:

観光を越えて、“関わる”を育てる。港町カルチャー×越境のDAO

① プロジェクトのはじまり

越境の地に、関わりの仕組みを

伊豆半島は、海を渡ってきた火山弧が本州と衝突して生まれた“越境の地形”です。天城を境に気質も文化も揺らぎながら混ざり合い、開国の港・下田は“外に開く”精神を刻んできました。

IZUとDAO合同会社は、この“越える”文化(ヨコノリ×オープンマインド = コエノイズ)を現代に接続し、「観光を越えて、街と関わる」新しい参加フレームを実装します。旅人・二拠点・地元・移住者・ノマド・中高生——越えてきた人の声が混ざり、街の賑わいを取り戻す循環をつくり出します。

② 解決したい社会課題

- ・観光偏重の季節変動: 夏の一極集中／冬～春・秋の価値未接続
- ・関与の浅さ: 旅行＝消費で終わり、地域の課題・実装へ繋がらない
- ・担い手不足: 商店街の空き／地域行事・自治会の運営負荷
- ・若年層の選択肢の乏しさ: 中高生の“関わる場”・学びの不足
- ・多様性の受け止め不足: 外国人・二拠点・移住者の就労関連の壁
- ・有事の脆弱性: 南海トラフ等の広域災害に対する、平時からの関与設計の不足

③ 私たちのビジョン

「コエノイズ(KOENOISE)」とは、

伊豆をかたちづくってきた“越える文化”と“混ざり合う力”を象徴する言葉です。

海を越え、山を越え、心を越えた人々の声が響きあい、街の中に柔らかなノイズとして残っていく。

このノイズこそが、まちの多様性を育み、次の創造を生み出すエネルギーになる——

IZU DAOは、そんな「コエノイズ」を体現する越境型トークンエコノミーを設計しています。

私たちの目指す伊豆の未来は、「訪れる場所」ではなく、「関わりが積み重なっていく場所」。
一人ひとりの小さな声や行動が、地域の“肥やし”となり、暮らしや文化を支えていく。
その循環を生み出すために、IZU DAOでは以下の3層構造を描いています。

1. トークンエコノミー:

日常の「ありがとう」や「手伝い」「共有」を可視化す*IZUポイント(リワードトークン)が、地域内で自然に巡る仕組みを構築します。

清掃・レビュー投稿・子どもへの学び支援・祭りや行事の手伝いなど、
観光でもボランティアでもない「関わりの行為」がポイントとして記録され、街の中で再び誰かの体験に変わっていく。

それは、貨幣的価値ではなく「関わりの可視化」として、地域の結びつきを育てます。

2. プロジェクト:

伊豆に根づく港町カルチャーを土台に、“混ざり合いながら育つ”共創プロジェクトを立ち上げます。

音楽・サーフ・ダイブ・クラフト・なまこ壁——

この地に息づく自然・文化・人の感性を媒介に、外の人も内の人もゆるやかにつながり、新しい仕事・イベント・教育・文化活動が次々と生まれていく。

これが“伊豆らしいDAO”の文化的循環です。

3. アセット(拠点):

街に点在する空き家・文化施設・商店街の空間を再生し、

「コエノイズ」を日常的に体感できる場＝サードプレイス／学び場を整備します。

中高生が地域の大人やノマドと交わり、海外からの訪問者が暮らすように滞在する。

そこでは“越えてきた声”が集まり、再びまちの資源として循環します。

伊豆のまちは、越えた声が響き、肥えていく。

そのリズムを育てることが、IZU DAOの目指す未来です。

「コエノイズ」を軸に、トークン・プロジェクト・アセットが連動し、

人・文化・自然がゆるやかに共鳴する“越境するまちの新しい経済圏”を実装していきます。

④ IZU DAOの構成

運営体:IZUとDAO合同会社(合同会社型DAO)

社員権：

非業務執行社員＝社員権NFTを基礎に1人1票(親DAO)

業務執行社員＝法務局届出／選出ルール(財務・経理・代表に二重承認/拒否権を付与)

子DAO:コワーキング・フードロスレストラン・チャレンジショップ・アセット再生・カレッジ等、目的別に切り出し

総会:年1回の予算・業務計画承認(親DAO)。期中はレベル制議題で意思決定

⑤ トークンとNFTの役割

名称	機能	対象
NFT:IZU DAO MEMBER	非業務執行社員の資格・提案権・投票権(1人1票)	支援者、居住者
IZUP(リワードトークン)	貢献の“ありがとう”可視化、体験特典のキー	すべての参加者

- ・ユーティリティトークンとして、日本法にも準拠
- ・銀行振込なし、クレジット決済のみ(暗号資産での決済も準備中)

⑥ トークノミクス(配分モデル)

項目	割合	内容
店舗開拓	6.49%	IZUDAO加盟店舗の拡大貢献へのインセンティブ
活動原資提供	29.87%	IZUDAO経済圏での新規プロジェクト創出時に付与
広報	11.56%	IZU DAO広報として付与
カルチャー	11.69%	IZUDAO文化圏形成のためのカンファレンス費用として
アセット改修	13.64%	IZUDAOとしてのアセット改修にあたってのリクルート費用
自治会支援	5.19%	IZU DAO賛同自治体の自治活動の補助
アプリ運用保守	0.39%	アプリ等の保守費用
余剰	21.17%	想定外の用途発生時に使用

⑦ ロードマップ

phase1(0.5年)：

- ・ノマドイベント期間でクエスト10／使用先10を確保

phase2(1年):

- ・IZUカンファレンスの開催
- ・ポイント加盟者50に到達

phase3(1.5年):

- ・PJ 3件立ち上げ(例: チャレンジショップ、教育×サードプレイスetc.)

phase4(2年):

- ・アセット取得3件

phase5(2.5年):

- ・取得したアセットの改修完了、運用開始

ゴール(3年):

- ・「越えた人々」が気軽に「呼べる・関われる・できる」状態を常態化

ゴール後:

- ・伊豆の指定管理受託やモデル輸出など、IZUの公共インフラとして定着・モデル化へ

⑧ お問い合わせ

運営法人: IZUとDAO合同会社

Co-Founder: 近藤 直幸、塚田絵玲奈、鈴木 浩之

メール: info@izudao.net